

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2192200018 | | |
| 法人名 | 株式会社 共寿 | | |
| 事業所名 | グループホーム南濃「福寿苑」 | | |
| 所在地 | 岐阜県海津市南濃町松山字四番代426-1番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年12月7日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoCd=2192200018-00&SerViceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 旅人とたいようの会 | | |
| 所在地 | 岐阜県大垣市橋町1丁目3番地 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年5月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人の生活習慣を大切に、日々ご自分のペースでゆったりと過ごせるように努めています。それぞれの有する力を把握し、ご本人の意思を尊重しながらできる限り自立した生活を送られるよう支援しています。コロナ禍で外出や面会が制限される中、敷地内を散歩する時やリビング・廊下からすぐそばの養老山脈が一望でき、四季の移り変わりを感じていただいています。地域との交流やボランティアの訪問も制限されている為、職員が年間行事計画を立て毎月季節に沿ったイベントや誕生日会を開催しています。利用者様に家事を手伝っていただき、共に支えたり支えられたりしながら毎日を過ごしています。ご家族とはご本人の日々の些細な出来事も伝えるよう心がけ、終末期については医療と連携を取りながら随時意向の確認を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が主体となって身体拘束や虐待防止の勉強会や委員会を開催している。事業所内に「虐待の芽」などポスターを掲示して職員に意識付けている。毎月のミーティングで身体拘束の具体的な内容について話し合っ正しく理解できるように取り組んでいる。職員は、安易にオムツを使用しないように心掛けてトイレに誘導している。利用前に立位が困難でオムツを使用していた利用者に対し、排泄の支援方法について本人や家族の意向を確認し根気強くトイレに誘導することで立てるようになり、リハビリパンツに改善した方もいる。管理者は、職員と一緒に時間を過ごし親身になって話を聞いたり、声を掛けたりすることで信頼関係を築き、職員が一丸となって利用者のペースで楽しく過ごせるように支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 項目 |
|----|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所、更衣室など施設内に貼り出し、職員が意識してケアにあたるようにしている。全体会議では冒頭に全員で唱和していたが、現在はそれぞれユニットで行っている。感染予防対策の為、地域との交流は自粛している | ユニット毎で日中にミーティングを行い理念について話し合っている。管理者は、職員と一緒に業務を行い気付いたことを伝えている。職員は、利用者のペースを大切にしてくつろぎと関わり理念の実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 保育園児や中学生が訪問したりボランティアとの交流があったが、現在は感染予防対策の為に自粛している。ボランティアの方からは、「行けるようになったらいつでも教えて」と声をかけてもらっている | 地域の老人会や子供会からちぎり絵や貼り絵を贈呈された。管理者は、利用者と一緒に写真を撮り老人会や子供会に渡している。地域の住民の協力を得て事業所の畑でキュウリやナスなど育てている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 電話による問い合わせ、地域の方の訪問による相談に対して、いつでも快く応じ支援の方法など伝えている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、家族、民生委員、自治会長、消防署、警察、行政が参加。活動状況や地域に関する意見交換を行っている。現在は書面会議となっている | 新型コロナウイルスのため書面で定期的に開催して、入居者の状況や行事などを報告し意見を返送してもらっている。会議の資料は残されているが議事録が作成されておらず公表することも出来ていない。 | 意見をサービス向上に活かすためにも議事録を作成し、家族や地域など広く公表できるような取り組みを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の高齢介護課、社会福祉課、地域包括と連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議に出席時は助言などいただいていた。感染対策として定期的にマスクなどの寄付がある | 市主催の会議に出席し市の担当者と意見を交換している。事故報告書を市の担当者に提出に行ったときに情報を提供している。管理者は市から依頼を受けて認知症サポーター養成講座を小学校で行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内に身体拘束・虐待防止委員会を設置し、外部研修に参加、伝達講習を行う、マニュアルの見直しなど全事業所に対し啓発活動に取り組んでいる。事業所では毎月会議にて検討している | 法人が主体となって勉強会や委員会を開催している。事業所内に「虐待の芽」などポスターを掲示して職員に意識付けている。毎月のミーティングで身体拘束の具体的な内容について話し合っ正しく理解できるように取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人内に身体拘束・虐待防止委員会を設置し、外部研修に参加、伝達講習やチェックリストの実施、ポスター配布など全事業所に対し啓発活動に取り組んでいる。スピーチロックについては、職員の意識付け、防止を目指し、不適切な場合はその場で注意している | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修で学ぶ機会がある。成年後見制度については、既に後見人となっている家族や、制度の利用を提案中の家族がいる。管理者は権利擁護推進員養成研修を受講している | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に本人・家族が納得できるように説明を行っている。改定時は案内文書を送付し、書面にて理解・同意を得ている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族アンケートを実施し、意見や要望を運営やケアに繋げている。管理者は随時家族と電話やメールでやり取りし、面会時は窓口として利用者の状況報告や意見を伺っている。毎月お便りで暮らしぶりを写真付きで伝えている | 電話やSMSで利用者の状況を伝えて意見や要望を聞いている。ケアの質向上委員会が家族アンケートを行い、事業所内で検討し、結果を家族に報告している。毎月、利用者の写真や状況を便りにして送付している。家族から要望がありガラス越しの面会やオンライン面会を行っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は日頃から職員の意見や相談、要望を言いやすい関係、職場作りに努めている。職員は年度初頭に自己目標を立て、年2回自己評価表を元に個別面談を実施、サービスの質の向上に繋げている | 管理者は、事業所内で職員と同じ時間を過ごし意見を聞いている。職員の家族背景を把握し親身になって声を掛けている。職員のアイディアを大切に話し合いながらイベントや手作りおやつなど積極的に取り組めるように取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与や労働条件に応じた手当の整備、面談時に要望を聞くなど職員が意欲を持って働ける職場環境作りに努めている。有給取得率は高い | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間計画を立て、外部研修の受講、委員会の伝達講習をもとに毎月の会議で勉強会を開いている。オンライン研修は、管理者がそばにつき職員が受講しやすい環境を整えている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の同業者と随時、情報や意見交換している。他事業所の同業者とは市の主催する研修に参加し交流している。現在はオンラインが多いが必要に応じて連絡を取ることができる | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に本人と事前面談を行う。入所当初の不安や要望は安心感のある態度で傾聴し、早く信頼関係が築けるよう努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 居宅のケアマネや他事業所、医療関係と連携を密に行い、家族の困りごとや不安なことを傾聴し、安心してサービスが利用できるよう支援している | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の思い、状況等を確認して支援の提案や説明を行い、必要なサービスについては検討している。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診) | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人をアセスメントし、できる事、得意なことなど尊重する。利用者は人生の先輩であることを忘れず、本人の話に耳を傾け、時には相談に乗ってもらうなど支え合いながら共に生活が送れるよう関係作りに努めている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は、家族に日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。時には、本人にとってよりよい支援について相談、助言を仰ぐことがある。家族にしかできない支援があることを説明し、共に本人を支えている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 現在は外出自粛だが、またできるようになったら店に来てほしい、と家で収穫した果物を家族が届けられる。馴染みの従業員の写真も持参し思い出話が出ていた | コロナ禍前は利用者の友人が来所したり、昔からの行きつけの店に利用者と一緒に出掛けたりしていた。職員が手伝って顔写真を貼った年賀状を家族や親戚に送っている。家族から希望があり法事に出席できるように職員が送迎している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の生活の中で利用者の性格や関係性を把握し、状況に応じ職員が間に入る。別ユニットの利用者とも合同の行事があり交流している。介護度の重度、軽度に関わらず、イベントやレクは全員参加していただいている | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も本人や家族から相談があった場合、いつでもサポートし良好な関係を保つよう努めている。利用されていた母親が契約終了し、10年後に娘様が夫の入所申し込みに来られた | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中で本人の要望や意向を伺い、職員間で把握している。困難な場合は、表情や行動から把握するように努め、本人本位の立場に立ち職員間、家族と検討している。 | 食事の時や散歩に出掛けた時に利用者の思いや意向を聞いている。利用者の隣に座って思いを聞くこともある。困難な場合は、家族に相談し利用者本位となるように職員間で検討し表情やしぐさから把握している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人から日々の暮らしの中で話を引き出し把握している。家族からも情報をもらい職員間で共有している。これまでのサービス利用については、担当者、ケアマネと連携を図り把握に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活パターンを把握し、申し送る、記録に残すことで把握に努めている。毎日バイタルチェックを行い、些細なことでも現状に変化がないか見逃さないよう留意している | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の日頃の様子や関りから課題を抽出し、家族の意向、医師の意見を取り入れながら職員、看護師の参加のもとケアカンファレンスで検討している。毎月モニタリングを行い介護計画の見直しを行っている | モニタリングは、月1回担当職員が行っている。モニタリングや記録を参考にして職員間で話し合っている。計画作成担当者は、職員の意見や家族の意向、記録を参考にして介護計画を作成しているが、家族の意向を職員間で共有できていない。 | 家族の意向を職員間で共有して、話し合って職員の意見や気付きを反映させた介護計画を作成できるように取り組んで欲しい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日常生活の中で気づいたことは、個別記録や申し送りで職員間で共有し、計画の見直しや実践につなげている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日々の関りの中から本人に必要とされるニーズを把握し、固定観念に捉われずニーズに沿った支援に取り組んでいる | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 以前は運営推進会議に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換があり、ボランティアや保育園と定期的に交流する楽しみがあった。現在は自粛中 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前にかかりつけ医について説明し、納得した上で安心して医療を受けていただく。定期的に協力医の往診があり、看護師が職員と連携し日々の体調管理を行っている。歯科医の往診も定期的にある | 従前のかかりつけ医や専門医の受診は職員が同行している。家族と医療機関で待ち合わせたり、家族が受診に同行したりする方もいる。家族から依頼があれば職員が同行している。結果は家族や協力医に報告している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤、非常勤の看護師がおり、職員が医療に関する事で相談したり、利用者の変化に早期に気づき対応することができる | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院関係者や家族と情報交換を行い本人の状態を把握している。家族の意向、病院、主治医と連携し速い段階で退院できるように努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に終末期の対応について指針を説明し同意を得ている。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる | 早い段階から家族の意向を確認し、関係者で話し合いながら意向に添えるよう取り組んでいる。看護職員が、緊急時の対応について介護職員に説明している。コロナ禍で面会を制限しているが、看取りの場合は特例で面会することができる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 適切な対応が出来るように対応マニュアルが作成してある。状況に応じ、職員と看護師は利用者の急変時の対応について確認・見直しを行っている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、家族や地域、消防署の協力のもと、災害訓練を行っていたが、現在は感染予防対策として施設の職員だけで行っている。夜間想定し、実施後は必ず振り返りを行い課題を抽出、次回に繋げている。備蓄品の点検を定期的に行っている | コロナ禍前は、地域住民の協力を得て訓練を行っていた。地域の住民と地域の災害について情報交換して災害に備えている。ラジオや懐中電灯、飲料水、食糧など備蓄している。新型コロナウイルスの影響により1回/年しか訓練を行っていない。 | 災害に備えて年2回定期的に訓練を行うことを期待する。 |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ケアにあたる時や接する時は、自尊心やプライバシーに配慮した対応を心がけ、言葉遣い、声の大きさ、トーンに注意している。居室の入口には各室のれんを付け、扉の透明部分は塞いで室内が見えないように配慮している | 介助を行う時は、声を掛けてから行うことを大切にしている。利用者のペースを大切に出来て見守っている。職員は、利用者の状態に合わせて声を掛けたり、接したりすることを心掛けている。排泄の時、座位が出来方は羞恥心に配慮してカーテン前で見守っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 普段から思いを話しやすいよう信頼関係作りに努めている。自分で選んで自分で決めることができるような言葉かけを心がけている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員の都合、業務を優先するのではなく利用者一人ひとりのペースに合わせ、そのつど本人と相談し、自分の気持ちを引き出すよう支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人が希望する時は、居室で鏡を前に化粧をし、夜、就寝前にクレンジング、洗顔される。2ヶ月に一度美容師がカットに訪れ、一人ひとりが希望のヘアスタイルを伝えている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの状況に応じ、見守り、介助にあたっている。以前は利用者と職員が会話を交えながら同じテーブルで一緒に楽しく食事を食べていたが、現在は感染症対策の為別々となった。お盆拭きや食器の跡片付けなどお願いしている | 冷蔵庫の食材を確認して利用者に食べたい物を聞いて献立を考えている。利用者と一緒に焼きそばやお好み焼きを作っている。買った数種類のケーキから利用者が好きなケーキを選んで食べている。寿司ランチや行楽弁当を作って庭で食べるなど楽しめるように工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日に必要とされる食事量、水分量が確保できるように、一人ひとりの状態に合わせた形状、量、食器など工夫し支援している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりのできる力を把握し、毎食後、口腔ケアを行っている。定期往診時に歯科衛生士がチェックし随時、職員にアドバイスをしている。また毎月、職員に口腔ケアの勉強会を行っている | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。日中は立位の難しい利用者も二人介助にてトイレを使用している。下着類については随時検討・見直しをして、本人に合ったものを使用している | 職員は、安易にオムツを使用しないように心掛けてトイレに誘導している。立位困難な方は2人で介助している。利用前に立位が困難でオムツを使用していた利用者の意向や状態を把握して根気強くトイレに誘導することで立てようになり、リハビリパンツに改善した方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日確認し数日排便が見られない時は看護師に報告、対応をお願いしている。繊維質の多い物やバナナ、牛乳、ヨーグルトなど状況に応じ提供している | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 重度の利用者は特浴、その他の利用者は個浴をそれぞれ週に3回利用している。本人の希望や体調、タイミングに合わせて柔軟に支援し、職員との会話を楽しく入浴している | 湯温や入浴時間など利用者の希望を叶えるように心掛けている。予定日以外に入浴を希望される方にはシャワー浴で対応している。職員は、会話しながら気持ち良く入浴出来る様に心掛けて支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室内の環境を整え、就床に向けて支援している。不眠時は活動状況を把握、転落転倒など注意している。生活習慣や体調に応じて日中も休息する時間を作っている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情を把握し、看護師と情報を共有している。薬の変更、調整を行う時は経過観察し、看護師に報告している。誤薬、落薬の無いように複数の目で確認し、飲み込みまで見守り支援している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれの生活歴や有する力を把握し、張り合いややりがいのある役割の取り組みを支援したり、個別レクや全員で楽しむレクを行っている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現在は外出を自粛しているが、以前は出先で家族と待ち合わせ、一緒に外出支援を楽しんでいた。現在は敷地内を散歩したり畑の野菜を収穫に行ったりしている。また外出できるようになれば墓参りや自宅に連れて行きたいと家族の要望がある | コロナ禍前は、花見など利用者と一緒に出掛けられるように家族に案内を出していた。利用者から選挙に行きたいと言われたため家族に相談して投票に出掛けている。急に外出を希望した場合は、職員と一緒に散歩やドライブ、買い物に出掛けている。 | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族と話し合い、できるだけ本人の希望に添うよう支援している。必要な物は家族や職員と一緒に買いに行くなど本人の力に応じて支援している。現在は外出自粛の為、家族に依頼したり職員が購入している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の希望があれば電話を取り次いでいる。状況に応じて、代わりに家族に伝えるなど支援している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 主に利用者が過ごすリビングは、空調や採光に配慮し居心地よく過ごせるよう努めている。玄関やリビングは季節感のある飾りや利用者の手作り作品、イベントの写真など掲示し職員と一緒に会話を交え楽しんでいる | 玄関先のプランターに季節の花を植えてリビングから見る事が出来る。職員は温湿度や換気に気を付けて快適に過ごせるように心掛けている。職員が利用者の中に入り少しでも楽しく過ごせるように配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自分の席以外にソファやテレビの前、和室などで過ごし、気の合った者同士でくつろいだり談笑している。冬場は廊下にイスを移したり車いすで移動し、日なたぼっこをする姿が見られる | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の壁には、家族や昔懐かしい写真が飾ってあったり、本人が作った作品や誕生日の写真が貼ってある。テレビを視ながらひとりでゆったりと過ごす利用者もいる | 机や椅子、使い慣れたクッションなどを持ち込んでいる。家族が持ってきた季節の飾り物や孫の写真を飾っている。カメラが好きだった方は、昔撮影した写真を飾っている。家族から誕生日にプレゼントされた本を読んでいる方もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりのできること、わかることを把握している。移動に際し、廊下の手すりを利用したり、導線上の障害物を撤去するなど、安全な環境の中で安心して生活が送れるよう支援に努めている | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2192200018 | | |
| 法人名 | 株式会社 共寿 | | |
| 事業所名 | グループホーム南濃「福寿苑」 | | |
| 所在地 | 岐阜県海津市南濃町松山字四番代426-1番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年12月7日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2192200018-00&SerVi.ceOd=320&Type=search |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 旅人とたいようの会 | | |
| 所在地 | 岐阜県大垣市橋町1丁目3番地 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年5月19日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所、更衣室など施設内に貼り出し、職員が意識してケアにあたるようにしている。全体会議では冒頭に全員で唱和していたが、現在はそれぞれユニットで行っている。感染予防対策の為、地域との交流は自粛している | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 保育園児や中学生が訪問したりボランティアとの交流があったが、現在は感染予防対策の為自粛している。ボランティアの方からは、「行けるようになったらいつでも教えて」と声をかけてもらっている | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 電話による問い合わせ、地域の方の訪問による相談に対して、いつでも快く応じ支援の方法など伝えている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、家族、民生委員、自治会長、消防署、警察、行政が参加。活動状況や地域に関する意見交換を行っている。現在は書面会議となっている | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の高齢介護課、社会福祉課、地域包括と連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議に出席時は助言などいただいていた。感染対策として定期的にマスクなどの寄付がある | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内に身体拘束・虐待防止委員会を設置し、外部研修に参加、伝達講習を行う、マニュアルの見直しなど全事業所に対し啓発活動に取り組んでいる。事業所では毎月会議にて検討している | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人内に身体拘束・虐待防止委員会を設置し、外部研修に参加、伝達講習やチェックリストの実施、ポスター配布など全事業所に対し啓発活動に取り組んでいる。スピーチロックについては、職員の意識付け、防止を目指し、不適切な場合はその場で注意している | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修で学ぶ機会がある。成年後見制度については、既に後見人となっている家族や、制度の利用を提案中の家族がいる。管理者は権利擁護推進員養成研修を受講している | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に本人・家族が納得できるように説明を行っている。改定時は案内文書を送付し、書面にて理解・同意を得ている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族アンケートを実施し、意見や要望を運営やケアに繋げている。管理者は随時家族と電話やメールでやり取りし、面会時は窓口として利用者の状況報告や意見を伺っている。毎月お便りで暮らしぶりを写真付きで伝えている | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は日頃から職員の意見や相談、要望を言いやすい関係、職場作りに努めている。職員は年度初頭に自己目標を立て、年2回自己評価表を元に個別面談を実施、サービスの質の向上に繋げている | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与や労働条件に応じた手当の整備、面談時に要望を聞くなど職員が意欲を持って働ける職場環境作りに努めている。有給取得率は高い | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間計画を立て、外部研修の受講、委員会の伝達講習をもとに毎月の会議で勉強会を開いている。オンライン研修は、管理者がそばにつき職員が受講しやすい環境を整えている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の同業者と随時、情報や意見交換している。他事業所の同業者とは市の主催する研修に参加し交流している。現在はオンラインが多いが必要に応じて連絡を取ることができる | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に本人と事前面談を行う。入所当初の不安や要望は安心感のある態度で傾聴し、早く信頼関係が築けるよう努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 居宅のケアマネや他事業所、医療関係と連携を密に行い、家族の困りごとや不安なことを傾聴し、安心してサービスが利用できるよう支援している | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の思い、状況等を確認して支援の提案や説明を行い、必要なサービスについては検討している。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診) | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者は人生の先輩であるので、本人の話に耳を傾け、お互いに笑い合い助け合いながら共に生活が送れるような関係作りに努めている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は、家族に日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。時には、本人にとってよりよい支援について相談、助言を仰ぐことがある。家族にしかできない支援があることを説明し、共に本人を支えている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族は、本人が家にいた頃手伝って出荷していた果物を届けに来られた。一年にその時期だけだが、昔の話を懐かしくされていた。以前は、入所前に利用していたショートステイの友人が訪問していた | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者一人ひとりの性格を把握し、関係を見守っている。状況に応じ、橋渡しをしたり席の配置など臨機応変に対応している | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も本人や家族から相談があった場合、いつでもサポートし良好な関係を保つよう努めている。利用されていた母親が契約終了し、10年後に娘様が夫の入所申し込みに来られた | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関りの中で本人の思いや要望を聞き取り、困難な場合は表情や行動から把握するように努めている。知り得た情報は、1日2回の申し送りや月1回のユニット会議で共有している | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人から日々の暮らしの中で話を引き出し把握している。家族からも情報をもらい職員間で共有している。これまでのサービス利用については、担当者、ケアマネと連携を図り把握に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活パターンを把握し、申し送る、記録に残すことで把握に努めている。毎日バイタルチェックを行い、些細なことでも現状に変化がないか見逃さないよう留意している | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の日頃の様子や関りから課題を抽出し、家族の意向、医師の意見を取り入れながら職員、看護師の参加のもとケアカンファレンスで検討している。毎月モニタリングを行い介護計画の見直しを行っている | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日常生活の中で気づいたことは、個別記録や申し送りで職員間で共有し、計画の見直しや実践につなげている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日々の関りの中から本人に必要とされるニーズを把握し、固定観念に捉われずニーズに沿った支援に取り組んでいる | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍の中、外出、ボランティア等の訪問は行っておらず、読み聞かせの会や踊り観賞会、書道教室、フルート演奏会などイベントは中止となっている。職員が施設内でいろいろ企画している | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前にかかりつけ医について説明し、納得した上で安心して医療を受けていただく。ひとりだけ在宅時のかかりつけ医を利用している。毎月看護師が同行し、家族に報告している。歯科医の往診も定期的にある | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員は日々の関りの中で一人ひとりの表情や様子の変化に気づき、異常の早期発見に努めている。発見時は速やかに看護師に報告し対応している。一時期、法人内の看護師の応援や訪問看護を利用していた | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院関係者や家族と情報交換を行い本人の状態を把握している。家族の意向、病院、主治医と連携し速い段階で退院できるように努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に終末期の対応について指針を説明し同意を得ている。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時確認をしながら支援に取り組んでいる | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 適切な対応が出来るように対応マニュアルが作成してある。状況に応じ、職員と看護師は利用者の急変時の対応について確認・見直しを行っている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、家族や地域、消防署の協力のもと、災害訓練を行っていたが、現在は感染予防対策として施設の職員だけで行っている。夜間想定し、実施後は必ず振り返りを行い課題を抽出、次回に繋げている。備蓄品の点検を定期的に行っている | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者一人ひとりに自尊心を損ねないように配慮し、その人に合った言葉かけをしている | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の会話や関わりの中から、本人の思いや要望が聞き出せるように努めている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日を通して、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を行うように心がけている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みの服を職員と選ぶことができる。馴染みの美容師が訪問時は、どのようにカットするか相談してリクエストしている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 時には自分で好きな物を選ぶパンのバイキングランチを行っている。パン屋と連携し、販売品より小さめのパンを朝焼いてもらっている。片付けやお盆拭きなど一緒にしている | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりに合った形態の食事を提供し、栄養低下にならないよう随時検討、工夫している。お好きな飲み物を把握して用意、食事、10時、15時以外にも提供し水分不足解消に努めている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりのできる力を把握し、毎食後、口腔ケアを行っている。定期往診時に歯科衛生士が口腔ケアを行い、職員にアドバイスを行っている。11月より、衛生士による口腔ケア勉強会が開かれている | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ、誘導を行っている。立位が困難な利用者は、二人で介助しトイレを利用。テープ式オムツは使わず、リハビリパンツとパッドで支援している | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日確認し数日排便が見られない時は看護師に報告、対応している。繊維質の多い物やバナナ、牛乳、ヨーグルトなど状況に応じ提供したり、敷地内を散歩するなど運動の機会を作るようにしている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 重度の利用者は特浴、その他の利用者は個室をそれぞれ週に3回利用している。本人の希望や体調、タイミングに合わせて柔軟に支援し、曜日や時間帯にかかわらず入る時もある | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室内の環境を整え、就床に向けて支援している。不眠時は活動状況を把握、転落転倒など注意している。生活習慣や体調に応じて日中も休息する時間を作っている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情を把握し、看護師と情報を共有している。薬の変更、調整を行う時は経過観察し、看護師に報告している。誤薬、落葉の無いように複数の目で確認し、飲み込みまで見守り支援している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりのできる力に応じ、張り合いややりがいのある役割の取り組みを支援している。自立した利用者は一人で洗濯物を干したり畳んだりし、車いすを使用の利用者は職員と一緒に外で洗濯物の取り込みを行っている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現在は外出を自粛しているが、以前は週末に家族と外出し、公園に行ったり喫茶店でコーヒーを飲んで帰ってきていた。また孫が開業している美容室に娘の車で出かける利用者もいた | | |

グループホーム南濃「福寿苑」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族と話し合い、できるだけ本人の希望に添うよう支援している。必要な物は家族や職員と一緒に買いに行くなど本人の力に応じて支援している。現在は外出自粛の為、家族に依頼したり職員が購入している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の希望があれば電話を取り次いでいる。状況に応じて、代わりに家族に伝えるなど支援している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 主に利用者が過ごすリビングは、空調や採光に配慮し居心地よく過ごせるよう努めている。玄関やリビングは季節感のある飾りや利用者の手作り作品、イベントの写真など掲示し職員と一緒に会話を交え楽しんでいる | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自分の席以外にソファや和室、席を移動し、気の合った者同士でくつろいだり談笑できる。天気の良い日は、玄関のベンチに座り、花や景色を眺めながらおしゃべりしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の壁には、家族や昔懐かしい写真が飾ってあったり、本人が作った作品や誕生日の写真が貼ってある | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりのできること、わかることを把握している。移動に際し、廊下の手すりを利用したり、導線上の障害物を撤去するなど、安全な環境の中で安心して生活が送れるよう支援に努めている | | |